

聞く、認める、恩送り

(原文)

宮島 らら (15 歳)

大阪府

あなたは相手の話を聞き、相手を認めてあげることができているだろうか？

「優しさとは、耳の聞こえない人にも聞け、目の見えない人にも見える言葉である」

これはトム・ソーヤの冒険を書いたアメリカの作家、マーク・トウェインの言葉だ。

私はこの言葉に感銘を受けたが、私の求める「優しさとは何か」の答えではなかった。

私にとって優しさとは何か、優しさあふれる社会をつくるにはどうしたら良いのか、ずっと考えていた私は、ふと中学校の同級生のことを思い出した。

中学校の頃の私はいじめに合い、不登校だった。私なんか死んだほうがいいと自暴自棄になっていたある日、私に優しくしてもらいお世話になったから、お礼を言うために会いたいと言っている子がいると聞き、私はその子に会ってみることにした。

私は彼のことを覚えていたが、特別何かしてあげた覚えはなく、私は彼に何をしてあげていたのだろうか。すべての答えは、彼に会った時に分かった。

彼は、皆が自分の大好きな電車のお話をすると嫌がる中で、私は嫌がらずに聞き、自分を否定しなかったその優しさに凄く救われた、と言い私に感謝した。

相手の趣味を否定せず聞いてあげることが、私にとって日常の何気ない行動だったが、彼は私の優しさだと捉えてくれたのだ。ほんの少し、私はいけない人間じゃないと思えた。私のことを気持ち悪いと嫌い、私の存在を否定する子達がいる中で、私を優しい人だと認め、感謝してくれる子が少なくともいた。皆が皆、私を嫌っていたわけではないのだと、嬉しくなった。

優しさとは、相手の話を聞き、相手を認めてあげることだ。

優しさとは、一人一人の何気ない行動から生れるものだ。

これが私の見つけた「優しさとは何か」の答えだった。

「優しさあふれる社会をつくる」には、まずは自分の身近にいる人に優しさを与えることから始めることが一番良いと私は考える。

「因果応報」「善因善果」この言葉があるように、世の中の理は簡単だ。憎しみが憎しみを生み、優しさが優しさを生むということ。

困っている人や悲しんでいる人、怒っている人を見かけたら話を聞いてあげよう。その人の抱えている問題の解決策が見つからなくても、話を聞いて自分を認めてもらえただけで、その人は幾分か救

われるだろう。

そしてもしも彼らに感謝をされたら、こう言ってほしい。

「恩返しはしなくてもいいから、恩送りをしてほしい」

私は誰かに感謝されると笑ってそう言う。なぜなら、優しさを与えられた人が、恩送りをして、他の人に優しさを与えれば、どんどん優しさの連鎖が続いていくと考えるからだ。

一人だけで優しさあふれる社会をつくり、世界を平和にすることは難しいけれど、大勢の人々が力を合わせれば、難しいことではなくなる。むしろ、簡単になる。

現代社会に生きる私達は、とても忙しい。忙しすぎて自分に余裕がなくなり、心が歪になってしまふ。すると、周りの人々の心の叫びに耳を傾けることができなくなる。そんな時は一度、深呼吸を試みてほしい。そうすれば心が落ち着くだろう。

その心の落ち着きがあるうちに、相手の話をじっくりと聞き、相手を認めてあげよう。

それが優しさあふれる社会をつくる第一歩だ。